

令和7年度第2回宗像市男女共同参画推進懇話会 議事録

日時：令和7年8月26日（火）14時00分～15時30分

場所：宗像市役所 本館 2階 201会議室

出席者

（敬称略、五十音順）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石橋 文恵	○	石山 さゆり	○	魚住 由佳理	○
岡山 元生	○	小森 雅子	○	藤谷 明美	○
水田 尚文	○	山田 雄三	○		

事務局出席者：廣渡、飯野、三浦

1 はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会 会長 石山さゆり

○委員
●事務局

2 議事録署名人選出

議事録署名人：水田委員

3 議事

（1）令和6年度実施状況報告に対する意見書について【資料1】

- 各委員から提出された評価シートを取りまとめ、会長・副会長確認の上で、委員に一次案として送付している。評価シートから一次案への取りまとめに際しては、同様の趣旨と思われる意見は集約、全体的な表現のトーンを揃えるなどしている。各委員に送付した一次案から一部修正の意見を頂いたため、事務局で修正し【資料1】に赤字で示している。具体的には、表現を「～と思う」「～考える」から「～である」「～してほしい」など断定するかたちに変更。「4 男女共同参画の視点による防災活動の推進」に「避難所運営に多様な意見を反映させることが重要である」との文を追加している。そのほか大きな修正はなかった。

（委員より修正意見なし）

- 本日、新たな修正がなかったため、資料1の案のとおり懇話会会長名で意見書を作成し市に提出する手続きを進める。

（2）第3次宗像市男女共同参画プランの振り返りについて【資料2】

- 「基本目標1 地域・社会活動における男女共同参画」

地域でのイベントや会議、講座など、様々な機会を通して女性参画の呼びかけや意識啓発を実施。防災会議における女性委員の人数は大きな変動はなかったが、男女の視点に限らず、様々な事情に配慮するという視点で避難所運営や準備を進めているところである。

市民意識調査結果で「地域活動や社会活動の場での男女の地位の平等感」について、「男性が優遇されている」と回答した人の割合は減っているものの、今後は原因や課題も含めて調査研究を進めていく必要がある。女性自治会長の割合や審議会の女性委員の割合についても伸び

悩んでおり、女性も含めて多くの人が参画できるような取り組みが必要と考えている。

●「基本目標２ 働く場における女性の活躍推進」

市民意識調査結果で「職場での男女の地位が平等」と回答する人の割合が増え、「男性優遇」と回答する人の割合が減っていることから、職場における男女平等意識が向上してきていることがうかがえる。しかしながら「男性優遇」は依然として49.5%と半数いるため、引き続き、この数値を下げていくための取り組みが必要。

●「基本目標３ ワーク・ライフ・バランスの推進」

保育所等の整備や病児保育送迎サービスの実施など、サービスの充実や環境整備を進め、待機児童ゼロを達成・継続できている。子育て支援センターやたまご学級への父親の参加も増えており、性別に関わりなく家事や育児に関わっていく傾向も見られる。引き続き、サービスの充実と意識啓発の両方の取り組みを進めていく必要があると考える。

●「基本目標４ 誰もが安全安心に暮らせる社会づくり」

市民意識調査でのDV認知度では、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、社会的暴力など、すべての項目において「どんな場合も暴力にあたる」と回答した人の割合が前回調査を上回っており、DVについての認知が高まっていることがうかがえる。一方、「自分が暴力を受けたことがある」と回答した人の割合は、前回調査から大きな変動はない。被害にあったり、悩んだりしている人が相談窓口にしっかりとつながるよう、引き続き相談窓口の周知や支援体制の強化を図っていく必要がある。

●「基本目標５ 男女共同参画社会の実現に向けた啓発」

市民意識調査結果では、「男は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「反対」と答えた人の割合が、前回調査より11.7ポイント上昇しており、性別役割分担を容認しない考え方が浸透してきていると考えられる。一方で、「賛成」と回答した人も依然として25.8%いることから、引き続き意識啓発に取り組む必要がある。

●「進行管理・評価方法について」

これまで課題としてあげられてきた評価方法に関する課題について、意見書をもとに記載している。4次プランはこの課題を踏まえて策定していく必要があると考えている。

○これをたたき台にして第4次プランの策定に向かって行くと思うが、進行管理・評価方法の部分が非常に大事だと思う。

○DV相談の窓口認知度について、男性の方が低い傾向があったかと思うが、その対策についてはどのように考えているか。

●具体的に男性をターゲットにした取り組みが決まっているわけではない。窓口自体の認知度を上げていくことも必要だが、もし知らなかったとしても、自分が被害にあったり相談したいと思ったりしたときに、すぐに調べれば相談窓口につながることも大事だと考えている。懇話会の場合でも、取り組み方法についてのアイデアがあればいただきたい。

○審議会の委員や地域の役員で、女性の登用率が上がってこないというのは、ワーク・ライフ・バランスがとれていないということや、男性優位という社会的認識が背景としてあるのではないかと考えている。数字だけ見るのではなく、そういった背景も含めて考えていくことが必要

ではないかと思う。

- 女性の健康支援のところで、必要な人が「生理休暇」を取れているのか心配している。申請したらきちんと休暇がとれるのかどうか等、実態を把握されているのか。
- 市では人事担当部署での把握になる。担当に確認を取りながら、次期プランに盛り込んでいくのかどうかについても懇話会と一緒に検討していきたい。
- DVの話に戻るが、加害者側に自分がやっていることがDVにあたるという発想、認識がない可能性もある。次回の市民意識調査では、そういったことも把握できるような設問を増やしたり、その結果を踏まえて、誰もが加害者になり得るというような内容の講演会を開いたりしてはどうか。
- DV相談の窓口の認知度については、高ければ高い程良いと思う。被害にあった人は心理的に孤立してしまい、「あんなこと言わなければよかった」「次はこう言えば怒られないかな」と自分で自分を責めるマインドが出てくる可能性がある。そうじゃなくて、少し冷静になって相談しようとなったときに、事前に窓口があることを知っている結びつきやすくなるし、孤立しにくくなる。「あなたは悪くない」というメッセージとともに窓口を周知してもらうと、すごく意味があるのではないかと思う。本人につながらなくても友人や親からつながるかもしれない。載せるメッセージをもう少しリアルな言葉にするのが良いと思う。
- 「窓口があることを知っていますか」という設問で「はい」と答えた次に、「困っている人がいたら伝えようと思うか」という項目を加えるのはどうか。
- 頂いたご意見のように、周りに被害者がいる場合は「困っている人がいたら伝えようと思うか」、自分が被害にあったときは「誰かに相談したか」など、被害にあった人や困っている人が相談窓口につながっているか、孤立していないかを把握できるような設問を増やすことも考えたい。
- DVを受けた場合に「相談しても良いんだ」ということを、子どもの時から分かっていてほしいと思う。教育現場でも早い時期から伝えていくことが大事だと思う。
- 宗像市と同じくらいの自治体と比べた時に、どこが進んでいてどこが足りていないというところは把握できているか。
- 審議会委員や自治会長の女性登用率は国や県の調査で出ているが、同規模の自治体との比較はできていない。
- 宗像市がどこで特色を出していくかというのは、同規模のところと比較したときに見えてくる部分もあると思う。実績値が上がったものも、他と比較しなければ単なる時代の変化とも捉えられるので、他市との比較も見ながら4次プランの策定につなげていくのが良い。
- 評価したことを改善につなげていく仕組みづくりが必要。プランには書かれないがとても大事なことなので、評価の流れ、改善のチャートなども懇話会の中で見て話ができればと思う。すぐに改善できなくても、しっかり振り返りとして記録に残しておくことが大事。できなかったから次年度頑張るということではなく、どこに原因や課題があるのかとしっかりと残して次につなげていくという地道な努力が必要かと思う。
- 課題や次の取り組みについての原因の究明が十分なされていないのではないかと感じる。各課で何が原因で達成できなかったということを分析するようなかたちをとっていくと良いのではない

いか。

- これまでは数字を追いかけている状態だった。ご指摘のとおり、原因を把握できていないことが課題だと考えている。今後、少しずつ紐解いていながら対策につなげていきたい。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、依然として 25.8%の人が「賛成」と答えている。年齢が上の年代が「賛成」というのは何となくわかるところもあるが、コロナ禍や物価高もあり、現役世代は生活のためにともに働くという考え方があるのではないかと思う。年齢別ではどうか。
- 男性で見ると、70代以上で「賛成」と回答した人の割合は 44.7%。一方で、40代では 5.9%、30代で 26.4%となっている。
- 夫が安定した職業の人は妻に家にいてほしいという 30代の声も聞いたことがある。固定的な性別役割分担意識が解消していくのは本当に難しいことだと感じている。
- 本日の意見を踏まえて事務局でも再度検討し、4次プラン案の中に盛り込んでいきたい。

(3) 第4次宗像市男女共同参画プラン骨子(案)について【資料3】～【資料5】

- 4次プランは、3次プランの枠組みや考え方を継承しつつ、目指す姿と進捗状況がわかるようなかたちで策定したいと考えている。
- 計画期間は令和8～12年度の5年間。今回新たに、令和6年4月に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく市町村計画としての位置付けも加えている。
- 宗像市における男女共同参画の現状と課題については、先ほどの3次プランの振り返りと市民意識調査の結果を踏まえて「現状と課題」として別紙【資料4】としてまとめている。本日議論いただいた上で修正し計画に記載したいと考えている。
- 3次プランの「基本理念」にあたるものとして、「ずっと住みたいまち宗像 性別にかかわらず、あらゆる分野で個性と能力を発揮し、自分らしく安心して暮らすことができる～ジェンダー平等社会の推進に向けて～」を「目指す姿」として設定したい。
- 上位計画である第3次宗像市総合計画において、「まちの将来像」として「ずっと住みたいまち宗像」を掲げており、各分野の様々な施策を行いながらも、宗像市としてはその将来像に向かっていくという意識を明確に示すため、総合計画と合わせて「ずっと住みたいまち宗像」としている。また、「男女」という考えにとらわれず、「多様な性や主体を尊重し参画を促していく」という考えに基づき「ジェンダー平等」という表現を使っている。「性別にかかわらず、あらゆる分野で個性と能力を発揮し、自分らしく安心して暮らすことができる」で、「ジェンダー平等社会」とはどのような社会なのかということを説明している。3次プランの基本理念「一人一人がお互いに認め合い、社会に参加できる、女性活躍のまち むなかた」では「女性活躍のまち」という表現を使っているが、仕事だけでなく、家事、育児、介護など、その時の状況に応じて自分らしく選択し活躍できるという意味を込めて「あらゆる分野で」という表現にしている。
- 「目指す姿」に向かっていくための4つの基本目標を設定予定。「女性活躍」や「ワーク・ラ

イフ・バランス」自体が目標ではなく、「一人ひとりが自分の望む働き方や生き方の選択ができる」環境をつくることを目標とし、その目標を達成するための手段として「女性活躍」や「ワーク・ライフ・バランス」を推進するという考え方に基づき、これまでの5つから4つに変更。また、「ジェンダー平等」の意識づくりがその他の取り組みの基盤となると考え、これまでの「基本目標5」から「基本目標1」に変更したい。

- 体系図（案）では、「目指す姿」「基本目標」から「基本施策」「取り組みの方向性」へ流れていくかたちを想定している。今回、「事業」ではなく「取り組みの方向性」としているのは、事業をやること自体が目的にならないようにするためである。「取り組みの方向性」に基づいて、毎年どのような事業を行うのが良いか検討し実施していくかたちにしてはどうかと考えている。
- 「目指す姿」の「ジェンダー平等社会の推進」となっているが、社会を推進するというのは違和感があるので「ジェンダー平等社会の実現」が良いと思う。
- 第3次総合計画での表現も踏まえて検討させていただきたい。
- 成果指標をどうするかということと一緒に考えていくのが良いのではないか。
- 継続して数値を見ていけるものとなると、市民アンケートや市民意識調査になり、3次プランと同じ数値が中心になってくる。
- 成果指標もあわせて、プランの中の文言を決めていくのが良いと思う。
- 次回の案では成果指標も含めて案を提案できるようにしたい。
- 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたとあるが、こういった女性を対象になるのか。宗像市にどの程度いるのか。
- 法律では「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）」と規定されている。様々な面で困難を抱えている女性と広く捉えている。相談があったときに適切に支援につなげられるよう、民間団体や他市町村、関係機関との連携について検討していきたいと考えている。
- 本日の議論に加えて、再度資料を確認の上、気付いたことや追加の意見、成果指標についての案などがあれば事務局までお知らせいただきたい。また、「基本施策」や「取り組みの方向性」についても、新たに加えた方がよいものや統合した方がよいものなどの意見があれば事務局までお願いしたい。
- 本日の意見と追加の意見を踏まえて、次回第3回の懇話会では、計画のかたちにして作成した「第4次宗像市男女共同参画プラン（案）」として提示する予定である。

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

水田 尚文